

蘇東坡集

金鑑業貴一

四

國・樂舞制聞列諸」是即古文傳抄之本也」(一編間列)。丁正  
三・賞與金鑰匙等歸立石水城」(甲乙圖文錄)。事  
・御賜賜申坊會攝の源合御書の續顯御書の御文請人の事  
二・辯猶會膳部少武司通樂達意風の山口號出音の御樂更上  
一・御首絶壁風雲御歌の歌の事

卷之三

卷之三

卷之三

根園藏書

法人 旗 許會名古屋出張所

この教頤書に就いて折衝したるも、三、四、五の三項はそれ  
ぞれ善處する用意あるも、一、二は絶對に應ぜずとの强硬な  
方針を堅持しつゝあり、これを聞き從業員は産業に次いで  
開業に入る、八、九、十の三日間折衝を重ねたるも十日に至  
つて就業せざる場合は交渉せずと會社側は一段と强硬なる態  
度を表明するに至る、本學議に對し愛國労働組合全國懇話會  
では十一日午后一時から緊急懇談會を開催して應援を協議し  
中部労働聯盟では十日午后七時より全体会議を開いて全面的  
應援を協議するとともがんつた。

賊的愛知時計座彈、争議氣相發表演説會」を名古屋市公會堂に開催し大いに氣勢を揚ぐるところがあつた。